

■資料■

漢文訓読法テキスト教材の開発

藪 敏裕

(岩手大学教育学部国語科)

大学の漢文学の講義において教えるべき内容は、漢字・漢語に関する知識から始まって中国思想史、中国文学史の知識に至るまで多岐にわたるが、なによりも原典を正しく読むための知識が最も重要であろう。そして、一般的には他の外国語を学ぶ場合と同様、口頭練習と文法翻訳法とを併用していくことが本筋であると思われる。しかし、現在の教員養成系学部では漢文学専門の教員養成は意図されておらず、国語教員養成の必要科目の一部として漢文学の講義が位置付けられているのが現状である。このため、古典中国語全般にわたる特別な訓練をしている余裕はなく、訓読によって原典を読んでいく方法をとらざるを得ない。

近年、中国語文法研究の進展とともに古典中国語文法に関してもすぐれた成果がある一方で、訓読による漢文読解法は必須科目として漢文の古典を大量に読んでいた時代の方法から一部の例外を除けば依然として脱却しきれておらず、現在では学習者に十分な成果をあげえないのが実情である。古典中国語文法研究の成果を吸収しつつ、学ぶものに最小の時間で最大の成果をあげ得る訓読法講義の体系をどのように構築していくかは重要な課題となっている。

筆者は本年度始めに、現在の水準を示すと思われる太田辰夫博士の体系をもとに、上述の目的をもって訓読法の授業を行うためのテキストを試作し、本学の漢文学概論の授業で使用し、一応の成果をみた。本稿はこのテキストを若干修正し公表して大方の批判をおおぐうとするものである。

漢文訓読法テキスト

一、漢文の成分

1、主語

① 君子務本。② 吾日三省吾身。③ 王好戰。④ 長子死焉。

(正主語)

⑤ 死馬且買之五百金、況生馬乎。⑥ 往者不追、來者不拒。

↓ ※ 11 (提示語)

⑦ 聖人吾不得而見之矣。⑧ 非礼之礼、非義之義、君子弗為。

(提示語と正主語)

⑨ 三里之城、七里之郭、環而攻之、(孟) ⑩ 善政民畏之、善教民愛之、(孟)

2、述語

⑪ 花開。⑫ 鳥啼。⑬ 草木繁茂。

⑭ 日長。⑮ 風暖。⑯ 草色青青。

○ (孔子) 之三子告、不可、○ 百聞不如一見、○ 学而時習之、不亦說乎、○ 君子多乎哉、不多也、○ 子夏日、君子有三變、望之儼然、即之也溫、聽其言也厲、

3、賓語

⑰ 學文。⑱ 事父母。⑲ 保天下。⑳ 行仁政。

(直接賓語 || 動作の直接的な客體)

㉑ 民德歸厚矣。㉒ 子游為武城宰。㉓ 吾自衛反魯。

(間接賓語 || 行為の結果・場所)

㉔ 邦無道。㉕ 多怨。㉖ 庖有肥肉、厩有肥馬。

↓ ※ 2 (主體賓語)

6、述語＋賓語など

○是時、漢兵盛食多、項王兵疲食絶、（史）

⑤7 読書。⑤8 愛衆。⑤9 従師。⑥0 事父母。⑥1 約二三之知友、登山。

⑥2 君子有三戒。⑥3 我寡兄弟。⑥4 得道者多助、失道者寡助。

⑥5 語魯大師樂。⑥6 与之坐。⑥7 饋其兄生鵝。

⑥8 孟孫問孝於我。⑥9 用其力於仁。

⑦0 子為誰。：為仲由。⑦1 管仲非仁者与。⑦2 長幼卑尊、皆非薛居州也。

⑦3 孔子魯人。⑦4 伯夷叔齊何人也。⑦5 政者正也。

⑦6 何謂也。⑦7 吾何執。⑦8 天何言哉。⑦9 牛何之。⑧0 予何言哉。

⑧1 德之不修、学之不講。⑧2 惟心之謂与。

⑧3 未之有也。⑧4 不吾知也。⑧5 望道而未之見。

○爾為爾、我為我、（孟）○幼而無父曰孤、（孟）○善事父母為孝、○景公問政孔子、

（史）○景公問政於孔子、（孟）○孔子学鼓琴師襄子、（史）○孔子学鼓琴於師襄子、

（韓詩外伝）○漢果数挑楚軍戰、（史）○仰以觀於天文、俯以察於地理、（易經）○何

常師之有、○人焉瘦哉、○不患人之不己知、患不知人、○四海之内皆兄弟也、

※2 有・無・多・少・衆・寡・富・乏（所有・存在）

⑧6 人皆有兄弟、我独亡。⑧7 人無遠慮、必有近憂。

⑧8 高帝新弃群臣、帝富於春秋。⑧9 今高后崩、而帝春秋富、未能治天下。

⑨0 人民衆、積蓄多。⑨1 我兄弟多。⑨2 善人少而惡人多。

○子曰、苗而不秀者有矣夫、秀而不実者有矣夫、

↓※2（有無等）

（授与動詞・間接賓語＋直接賓語）

（直接賓語＋於＋間接賓語）

（同動詞）

（同動詞の省略）

（賓語が疑問詞）

（賓語の倒置）

（代名詞を賓語とする否定文）

※ 3 於・子・乎（特別な介詞）

⑨③ 臣始至於境。⑨④ 舜往于田。⑨⑤ 王座於堂上。⑨⑥ 之一邦。⑨⑦ 言不及義。

⑨⑧ 孟武伯問孝。⑨⑨ 或問子產。①①① 孟孫問孝於我。①①② 子禽問於子貢。

①①③ 子入大廟。①①④ 鼓方叔入於河。①①⑤ 告夫三子。①①⑥ 告於哀公。

○ 夫子至於是邦也必聞其政、

7、修飾語＋被修飾語

①①⑦ 天命。①①⑧ 民德。①①⑨ 其中。①②① 一言。①②② 三年。①②③ 善人。①②④ 肥馬。①②⑤ 浮雲。①②⑥ 不教民。

①②⑦ 父之道。①②⑧ 千乘之国。①②⑨ 誰之過。①③① 古之學者。①③② 鄉人之善者。

①③③ 時習。①③④ 不知。①③⑤ 朝聞道。①③⑥ 梅花已發。①③⑦ 水流甚急。

①③⑧ 上自南郡由武關歸。①③⑨ 與朋友交。①④① 世子自楚反。①④② 為長者折枝。

○ 回年二十九髮盡白、蚤死、（史）

※ 4 名詞の副詞化

①④③ 豕人立而啼。①④④ 庶民子來。

○ 范中行氏皆衆人遇我、我故衆人報之、至於智伯國士遇我、我故國士報之、（史）

8、兼語文（二個の述語を持つ文）

①④⑤ 有父兄在。①④⑥ 無物不長、無物不消。

①④⑦ 使（令・教・遣）読者感動。①④⑧ 周公使管叔監殷。

○ 子路使子羔為費宰、○使民戰栗、○使天下無以古非今、（史）

9、重文（從屬的な分句が主要な句の前にくる）

①④⑨ 父母在、不遠遊。①④⑩ 如有復我者、則吾必在汶上矣。①④⑪ 國王好仁、天下無敵焉。

（使役）

○微管仲、吾其被髮左衽矣、

三、漢語の品詞

10、名詞・動詞・形容詞

- ⑬⑨ 与朋友交而不信乎。⑬⑩ 無友不如己者。⑭⑩ 非其友不友。
 ⑭① 有朋自遠方來。⑭② 敬鬼神而遠之。⑭③ 非富天下也。
 ⑭④ 夫子之文章。⑭⑤ 小人之過也必文。⑭⑥ 然則小固不可以敵大。

11、代詞

人称代詞

- 吾・我・予・余・某
 女・若・爾・乃・而
 他・其・彼・渠・伊
 己・自・其

人

- 或・其・某
 莫
 誰・孰
- ⑭⑦ 或百步而後止、或五十步而後止。
 ⑭⑧ 一民莫非臣也。⑭⑨ 尊親之至、莫大乎以天下養。
 ⑮⑩ 誰能出不由戶。⑮⑪ 百姓足君、孰与不足。⑮⑫ 誰敢侮之。

指示代詞

- (一人称)
 (二人称)
 (三人称)
 (自称)
 (他称)
 (不定)
 (否定)
 (疑問)

茲・斯・是・之・此・若

(近称)

其・彼・夫

(遠称)

末・莫

(否定)

何・奚

⑬ 夫何憂何懼。⑭ 於從政乎、何有。⑮ 奚自。

(疑問)

何如

⑯ 貧而無詔、富而無驕、何如。

(疑問・狀態)

如：何

⑰ 不能正其身、如正人何。

(疑問・手段方法)

何以

⑱ 君何以到彼國。⑲ 不敬、何以別乎。

(疑問)

何為

⑳ 何為嘲笑小生。㉑ 何為其莫知子也。(㉒ 何為則民服。)

(疑問)

何由

㉓ 何由知吾可也。

(疑問)

孰

㉔ 師与商也、孰賢。

(疑問)

惡(安・焉)

㉕ 牛安之。

(疑問)

○以五十步笑百步則何如、(孟)○如之何其受之、(孟)○其知可及也、其愚不可及也、

○及其使人也、器之、○与其死於臣之手也、無寧死於二三子之手乎、○知之者、不如好

之者、○堯舜其猶病諸、○天下莫強焉、

※ 5 疑問文

① 可謂仁乎。

(文末助詞「乎・与・邪・耶」を用いる)

② 何必讀書、然後為學。③ 足下何以得此声於梁楚間哉。

(疑問詞を用いる)

④ 上問医曰、疾可治不。

(文末に否定の副詞を用いる)

○曾子曰、吾日三省吾身、為人謀而不忠乎、与朋友交而不信乎、伝不習乎、

○獄主問治長、何以殺人、治長曰、解鳥語、不殺人、主曰、当試之、若必解鳥語、便相

放也、若不解、当令償死、駐治長在獄六十日、卒日有雀子、緣獄柵上、相呼嘖嘖、治長含笑、吏啓主、治長笑雀語、是似解鳥語、主教問治長、雀何所道而笑之、治長曰、雀鳴嘖嘖、白蓮水辺、有車翻覆黍粟、牡牛折角、收斂不尽、相呼往啄、獄主未信、遣人往看、果如其言、

(論語義流)

※ 6 反語

⑩以臣弑君、可以謂仁乎。⑪為仁由己、而由人乎哉。

⑫割雞焉用牛刀。⑬王侯將相、寧有種乎。⑭有朋自遠方來、不亦樂乎。

○滕文公問曰、滕小國也、竭力以事大國、則不得免焉、如之何則可、孟子對曰、昔者大王居邠、狄人侵之、事之以皮幣、不得免焉、事之以犬馬、不得免焉、事之以珠玉、不得免焉、乃屬其耆老、而告之曰、狄人之所欲者、吾土地也、吾聞之也、君子不以其所以養人者害人、二三子、何患乎無君、我將去之、去邠、踰梁山、邑于岐山之下居焉、邠人曰、仁人也、不可失也、從之者如歸市、或曰世守也、非身之所能為也、効死勿去、君謂扞於斯二者、

(孟)

○楚人有涉江者、其劍自舟中墜於水、遽契其舟曰、是吾劍之所從墜、舟止、從其所契者入水求之、舟已行矣、而劍不行、求劍若此、不亦惑乎、以此故法為其國与此同、時已徙矣、而法不徙、以此為治、豈不難哉、有過於江上者、見人方引嬰兒而欲投之江中、嬰兒啼、人問其故、曰、此其父善游、其父雖善游、其子豈遽善游哉、

(呂氏春秋)

12、數量詞

一・二・兩・三・十・百・千・萬・數・半・再
尺・仞・里

(數詞)
(量詞)

13、特殊な動詞

為 非 謂 有・無 亡 猶・由 若・如 似 可 可以 能 足 足以 得 得而 敢

①75 子為誰。①76 善事父母為孝。①77 爾為爾、我為我。

(繫辭)

①78 非其罪也。

①79 子謂顏淵、曰：。①80 子謂韶、尽美矣、又尽善也。

(批判する)

①81 或謂孔子曰

(告げる)

①82 X謂A∥謂X曰A∥謂XA

(認定・解釈・命名)

①83 有顏回者、好学。①84 陳文子有馬十乘。①85 不有博奕者呼。①86 人無信。

①87 人皆有兄弟、我独亡。

①88 過猶不及。①89 人生之善也猶水之就下也。

①90 百聞不若一見。①91 未若貧而樂富而好礼者也。

①92 似不能言者。①93 孟施舍似曾子。

①94 後世可畏。①95 燕可伐與：人可殺與。

①96 士不可以不弘毅。①97 可以託六尺之孤、可以寄百里之命。

①98 石不能言、我代言。①99 夏礼吾能言之。

②00 管仲晏子猶不足為與。：文王不足法与。

②01 吾力足以举百鈞、而不足以举一羽。

②02 雖有粟、吾得而食諸。②03 使不得耕耨以養其父母。

②04 夫子之文章、可得聞也。夫子之言天道与性命、弗可得聞也已。

②05 夫子之文章、可得而聞也。夫子之言性与天道、不可得而聞也。

②06 丘未進、不敢嘗。

肯 公子欲見兩人、兩人自匿、不肯見公子。

欲 山青花欲然。陽貨欲見孔子。耕者皆欲耕於王之野。

見・被 盆成括見殺。年四十而見惡焉。

屑 予不屑之教誨也者。

使 使子路問津焉。

当・合・応 当然。言人之不善、当如後患何。王即弗用鞅、当殺之。

宜 不亦宜乎。將軍至尊、不宜入閭閻。蓋君子善善惡惡、君宜知之。

須 不須復煩大將。若是聖王不須封禪、若是凡主不応封禪。

易・難 少年易老、學難成。君子易事而難養也。

※7 受け身 受け身の表現は文法的手段によらないことが多い。

信而見疑、忠而被謗。百姓之不見保、為不用恩焉。

殺於人。東敗於齊：西喪地於秦七百里、南辱於楚。

為友所嫌。為人所詰。

君子疾没世而名不称焉。魯之削也滋甚：孔子為魯司寇、不用。

○齊侯問於晏子曰、忠臣之事其君何若、对曰、有難不死、出亡不送、君曰、裂地而封之、

疏爵而貴之、吾有難不死、出亡不送、可謂忠乎、对曰、言而見用、終身無難、臣何死焉、

謀而見從、終身不亡、臣何送焉、若言不見用、有難而死之、是妄死也、諫而不見從、出

亡而送之、是詐為也、故忠臣者、能納善於君、而不能与君陷難者也、

※8 使役形

子路使子羔為費宰。周公使管叔監殷。民可使由之、不可使知之。

↓ ↓
17 14

↓ ※
8

↓ ※
7

(說苑)

14、
介詞

②③ 於是、悉禁郡国無鑄錢。②④ 桓公与宋夫人飲船中。夫人蕩船而懼公。
○ 楊朱之弟楊布、衣素衣而出、天雨、解素衣、衣緇衣而反、其狗不知而吠之、楊布怒將擊之、楊子曰、子母擊也、子亦猶是、曩者使女狗白而往、黑而來、子豈能母怪哉、

(韓非子)

○ 景公有馬、其圉人殺之、公怒、援戈將自擊之、晏子曰、此不知其罪而死、臣請為君數之、令知其罪而殺之、公曰、諾、晏子拳戈而臨之曰、汝為吾君養馬而殺之、而罪当死、汝使吾君以馬之故殺圉人、而罪又当死、汝使吾君以馬故殺人、聞於四隣諸侯、汝罪又当死、公曰、夫子釈之、夫子釈之、勿傷我仁也、

(說苑)

○ 溫人之周、周不納客、問之曰、客耶、対曰、主人、問其巷人、而不知也、吏因囚之、君使人問之曰、子非周人也、而自謂非客何也、対曰、臣少也誦詩、曰、普天之下、莫非王土、率土之濱、莫非王臣、今君天子、則我天子之臣也、豈有為人之臣、而又為之客哉、故曰主人也、君使出之、

(韓非子)

以・用

②③ 君子不以言举人、不以人廢言。②④ 說之不以道、不說也。
②⑤ 文王以民力為台為沼。②⑥ 貧与賤是人之所惡也、不以其道得之、不去也。

②⑦ 以吾從大夫之後、不敢不告。

②⑧ 以夫子為木鐸。②⑨ 天子不能以天下与人。

②⑩ 為人謀而不忠乎。②⑪ 十余万人皆入睢水、睢水為之不流。

②⑫ 君孰与不足。②⑬ 与朋友交而不信乎。

②⑭ 有朋自遠方來。②⑮ 世子自楚反。

為・比
与
自・由・從

於・子・乎
 ②① 自古皆有死。②② 自生民以來未有夫子也。
 ②③ 不義而富且貴、於我如浮雲。②④ 死於道路乎。②⑤ 告於哀公也。

每
 ②⑥ 每逢佳節、倍思親。

当

※ 9 介賓連語（介詞＋賓語）の位置

②⑦ 君子不以言舉人、不以人廢言。

②⑧ 說之不以道、不說也。②⑨ 王立於沼上。

（介賓連語＋述語）
 （述語＋介賓連語）

○子貢問政、子曰、足食、足兵、民信之矣、子貢曰、必不得已而去、於斯三者何先、曰、去兵、子貢曰、必不得已而去、於斯二者何先、曰、去食、自古皆有死、民無信不立、

○季康子問、仲由可使從政也與、子曰、由也果、於從政乎何有、曰、賜也可使從政也與、曰、賜也達、於從政乎何有、曰、求也可使從政也與、曰、求也芸、於從政乎何有、

※ 10 比較

②⑩ 子貢賢於仲尼。②⑪ 青出於藍、而青於藍。冰水為之、而寒於水。

②⑫ 百聞不如（若）一見。②⑬ 生而辱不如死而榮。②⑭ 興一利不如除一害。

②⑮ 衣莫如（若）新、人莫若故。②⑯ 一年之計、莫如樹穀、十年之計、莫如樹木、終身之計、莫如樹人。

②⑰ 寧為鷄口、無為牛後。②⑱ 礼与其奢也、寧儉。

○元子嘗問命於清惠先生、先生曰、子欲知命、不如平心、平心不如忘情、喏曰、幸先生教之、先生曰、夫平心能正是非、正是非、忘情能滅有無、子何先焉、曰、請先忘情、先生曰、子見草木乎、子見天地乎、草木無心也、天地無情也、而四時自化、雨露自均、根

15、
副詞

柢自深、枝幹自茂、如是天地豈醜授而成哉、草木豈憂求而生哉、人之命也、亦由是矣、若夭若壽、若貴若賤、烏可強哉、不可強也、不可強也、不如忘情、忘情当学草木、

(唐宋八家文)

已・太・弥

(程度)

已・既・嘗・方・其・屢・又・復

(時間)

將・且 ㉞ 将来。

(時間)

亦・唯・独・各・皆・俱・共・相

(範圍)

蓋・其・曾・豈・夫・必・固・或・猶・無乃

(狀態)

何・奚 ㉞ 何莫由斯道也。㉞ 何必讀書、然後為学。㉞ 盍徹乎。

(疑問)

惡・安・焉 ㉞ 人焉瘦哉、人焉瘦哉。

(疑問)

未 ㉞ 未来。㉞ 未若貧而樂、富而好礼者也。

(否定)

盍 ㉞ 盍学。

(否定)

不 ㉞ 不学。

(否定)〔行為や狀態を否定すること〕

弗 ㉞ 弗如也、吾与女弗如也。

(否定)

勿・無・莫・靡・亡・毋・无・罔

㉞ 勿言。

(否定)〔禁止・否定的命令〕

○不足者唯努力、○独我合格、○不遠千里而来、(孟)○不登高山、不知天之高也、(荀子)○人不知而不愠、不亦君子乎、○王欲行王政則勿毀之矣、(孟)○己所不欲、勿施於人、(史)○無友不如己者、

※11 否定文の特徴

②80 不患人之不己知、患不知人也。

②81 危邦不入、乱邦不居。②82 暴虎馮河、死而無悔者、吾不与也。

②83 不必要。②84 不常勝。②85 不復歸。②86 不敢戰。

②87 必不要。②88 常不勝。②89 復不歸。②90 敢不戰。

②91 無不食。②92 非不勉。②93 無非虫。

②94 無一日不努力。②95 不可不憶。②96 未嘗不忘。②97 不敢不愛。

○凡人莫不從其所可、而去其所不可、知道之莫之若也、而不從道者、無之有也、假之有人、而欲南無多、而惡北無寡、豈為夫南者之不可尽也、離南行而北走也哉、今人所欲無多、所惡無寡、豈為夫所欲之不可尽也、離得欲之道、而取所惡也哉、故可道而從之、奚以損之而乱、不可道而離之、奚以益之而治、故知者論道而已矣、小家珍說之所願皆衰矣、

(荀子)

16、連詞

与(與)・且・而・以・一則…一則…・既…又…

(並列添加)

抑・如

(選択)

則・斯・然後・然則・若・如・至於・譬如

(承接)

然而・仰

(逆接)

及

(時間)

与(與)其…寧(豈若・無寧)

↓※10

(比較)

以・故・是故・是以

(因果)

(賓語が代詞)

↓1 (提示語)

(部分否定)

(全部否定)

(二重否定)

雖

②98 自反而縮、雖千万人吾行矣。

(讓步)

既

(推論)

如・而

(假定)

縱・雖

(縱予)

苟

(限定)

※12 仰揚・累加

②99 臣以為布衣之交、尚不相欺。

③00 不唯汝有憂、人亦皆有之。

※13 假定

③01 不入虎穴、不得虎兒。③02 王如用予、則豈徒齊民安、天下之民舉安。

③03 國雖大、好戰必亡。天下雖平、忘戰必危。③04 且予縱不得大葬、予死於道路乎。

③05 如有周公之才美、使驕且吝、其余不足觀也已。

○孟子曰、不仁者可與言哉、安其危、而利其菑、桀其所以亡者、不仁而可與言、則何亡

國敗家之有、有孺子、歌曰、滄浪之水清兮、可以濯我纓、滄浪之水濁兮、可以濯我足、

孔子曰、小子聽之、清斯濯纓、濁斯濯足矣、自取之也、夫人必自悔、然後人悔之、家必

自毀、而後人毀之、國必自伐、而後人伐之、太甲曰、天作孽、猶可違、自作孽、不可活、

此之謂也、

(孟子)

17、助詞

者・之 ③06 非死者難也、処死者難。

(連語助詞)

乎・與・哉・夫

(文末助詞)

也・矣・已・焉・而已・耳・弥・然

(文末助詞)

所

③⑦ 隱非君子之所欲也。③⑧ 兄弟榮寵過盛人所疾也。

③⑨ 問其所欲。③⑩ 非信無所與計事者。③⑪ 臣不知卿所死處。

所以

③⑫ 法令者所以導民也。③⑬ 此之所以失之也。③⑭ 此非所以跨海內制諸侯之術也。

18、間投詞

③⑮ 惡、是何言也。③⑯ 諾、吾將問之。

注 例文の出典は『論語』『孟子』からのものが多いが、いちいち注記しなかった。なお史は

『史記』孟は『孟子』の略である。

参考文献

漢文入門

(小川環樹・西田太一郎 1957年 岩波書店)

漢文概説

(藤堂明保 昭和35年 秀英出版)

漢語文法論(古代編)

(牛島徳次 昭和42年 大修館)

漢文入門

(藤堂明保 1976年 学燈社)

中国語歴史文法

(太田辰夫 昭和56年 朋友出版)

古典中国語文法(改訂版)

(太田辰夫 昭和59年 汲古書院・初版は昭和39年)

漢文訓読の基礎

(中沢希男 渋谷玲子 1985年 教育出版)

漢文學概説

(国學院大學漢文學研究室編 昭和61年 三光社出版)

漢文入門

(乾一夫 昭和62年 有精堂出版)

漢文の語法
中國文學概説

(西田 太一郎 昭和63年 角川出版・初版は昭和55年)
(国學院大學中国文学研究室編 平成4年 笠間書店)